

【安芸国の祖神】

速谷神社 禰宜 山田幸博

一、自己紹介

一、速谷神社の略記

成務天皇（十三代天皇 一三一～一九〇）の時代「阿岐国造」が飽速玉男命という神を祀っていた（旧事本記）

平安時代初期） 安芸国の祖神・速谷神社の祭神は飽速玉男命

「延喜式神名帳」（九二七）に記載 「式内社」・・・千年以上続く由緒ある神社

二八六一社 ↓重要度により官幣社、国幣社 中国九州地方唯一の官幣大社・名神大社

↓その後 厳島神社が隆昌したのに対し衰退の途をへ江戸初期（福島正則の改易頃）社殿が荒廃↓広島藩主浅野光晟（みつあきら）が社殿造営↓その後は藩の篤い崇敬が続く。

↓現在は神社本庁が指定する別表神社（全国で三百数十社、広島県九社）、旧社格国幣中社

一、神道の起り

稲作、農耕民族 自然発生的に誕生 祈年祭、新嘗祭

↓昨年の御代替り・・・踐祚の式、即位礼、大嘗祭

・第十代崇神天皇（三世紀初め）疫病で多くの国民が亡くなる。自然災害や疫病↓祭祀を行うことが最終的な解決方法で、災害の解決は祭祀の成功に委ねられる。

一、神とは

本居宣長「古事記伝」→『尋常ならず優れたる徳ありて可畏き物を迦微と云なり』

御成敗式目（五十一ヶ条）の第一条 「神社を修理し、祭祀を専らにすべきこと」に続き『神は人の敬ふに依りて威を増し、人は神の徳に依りて運を添ふ』

一、全国の神社

約八万社。 明治三十九年頃は約二十万社↓**神社合祀令**（明治三十九年～四三年）

約八万社の大まかな訳 ①**稻荷神社**（総本社→伏見稻荷大社・宇迦之御魂大神）→約三万二千、②八幡

社（総本社→宇佐神宮・応神天皇）→約二万五千、③**天神（天満）社**（代表的な神社・大宰府、北野天満宮

→菅原道真公→一万五百。④そのほか 住吉神社約2千

一、神社の祈祷

日供→毎日のお勤め

一般的な祭りの内容→①**修祓**②**献饌**③**祝詞奏上**④**玉串拝礼**⑤**撤饌**

↓一年を通して様々な祭りを行う 神社以外の場所では、地鎮祭、竣工祭、神葬祭等

(参考)

一、神社の社号↳「神宮(じんぐう)」、「宮(ぐう)」、「大社(たいしゃ)」、「社(やしろ)」

「神宮」↳天皇や皇室の祖先神を祭神とする規模の大きい神社

例↳熱田神宮、石上神宮、鹿島神宮、香取神宮、鵜戸神宮、平安神宮等

「宮」↳皇室にまつわる人物や、人間神などを祭神にする神社

例↳香椎宮、筥崎宮、北野天満宮、日光東照宮等

「大社」↳出雲大社のみで社号だったが、明治以降、規模や格が高い神社に使われている

例↳出雲大社、諏訪大社、春日大社、多賀大社、熊野本宮大社等

「社」↳大きな神社から祭神を勧請している小規模の神社

例↳祇園社、稲荷社、天神社、八幡社等

一、祭神の分類〜大きく分けて三系統

①氏神型〜在地の氏族の祖として伝承される神、あるいはその氏族を守護すると信じられた神

(例) 大神氏の氏神大物主神を祭神とする大神神社、賀茂氏の氏神賀茂別雷神を祭神とする賀茂別雷神社

②勸請型〜大元の神の分霊を他所に遷して祀ることを勸請という。(例) 稻荷神社、八幡神社、住吉神社、神明

宮(伊勢神宮の祭神「天照大神」を勸請)

③人神型〜人間を神として祀る神社(例) 非業の死を遂げた人間の霊の崇りを鎮め、顕彰する菅原道真を祀る北野

天満宮

一、神社の祭り

①大祭〜例祭、祈年祭、新嘗祭等(神職の装束―正服) 冠、身分に応じた袍と袴を着ける)

②中祭〜歳旦祭、紀元祭、天長祭等(神職の装束―斎服) 冠、袍、袴とも白地)

③小祭〜月次祭、日供祭等(神職の装束―常服) 烏帽子、狩衣と身分に応じた袴)